

West Balkan NFFIS & Eco-DRR Newsletter

Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction through
National Forest Fire Information System (NFFIS) and Eco-DRR
Mar 2021 - Feb 2026

国家森林火災情報システム（NFFIS）とEco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト

本プロジェクトの目的は、森林火災及びその他自然災害の防災・減災にかかる政府関係者の能力がNFFIS及び生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の導入を通じて強化されることです。

Vol7では、2024年1-6月の活動を報告いたします。



コソボ・モンテネグロの首都とプロジェクトサイトの位置

雪崩防止林モニタリング活動 - Restelice村

本プロジェクトは、雪崩防止林の開発計画に沿って、コソボ南部のRestelice村で将来の雪崩のリスクを軽減するために約28,000本のトウヒの苗木や他の種を植えました。植えられた木々が成長し、雪崩防止林を形成することで、雪崩の発生と流動を抑止する機能が期待されています。

このEco-DRRの展示的活動が長期的に成功するために、2024年5月に生存率と樹長を計測する定期調査が実施されました。この調査にはPrizren大学の林学を専攻する学生が参加し、植栽木の生存率をモニタリングしました。この結果は、植栽木の成長に関する貴重なデータを提供し、プロジェクトにおいて重要な役割を果たします。さらに、学生にとっても実際の森林管理について実践的な経験を得る機会となりました。



Restelice村で苗の成長を測定する
森林学部の学生

Ecoグループ活動 - Istog市 「クーリングステーション」

絵画のように美しい自治体として知られるコソボ西部のIstog市では、画期的な環境イニシアチブが進行中です。この取り組みの中心には、環境教育と地域社会の関与の拠点となる「クーリングステーション」による意識啓発・普及があります。この活動は、住民に植樹を奨励し、防風林の重要性を理解してもらうことを目的としており、最終的には、より持続可能で強靱な環境を育むことを目指しています。この取り組みは、樹木がもたらす幅広い環境上の利点、例えば大気の浄化、炭素貯蔵、野生生物の生息地提供などを特に取り上げています。またクーリングステーションには、実際に樹木が風速を減少させ、土壌浸食を防ぐという実用的な利点を示す模型の防風林が設置されています。

プロジェクトの一環として、Istog市民に植樹の手順を説明しながら、多数の苗木が配布されました。この活動には、地元企業も共同出資しており、その関心の高さがうかがえます。また、「ネイチャー・ベースド・ソリューション」（自然に基づく解決策）を通じて問題に取り組むこの活動は地元コミュニティから高い関心が示されています。



防風林の植林を推進
Istog市「クーリングステーション」

活動後のモニタリング- Kolasin市



昨年、本プロジェクトでは、モンテネグロ北部のKolasin市で森林火災後の植生回復という野心的な活動を開始しました。この地域の生態系の回復が必要とされる中で、プロジェクトは8,900本のトウヒと480本のクロマツの苗木を植林しました。この取り組みは、適正な土地利用の回復と健全な生態系の促進を目指した包括的な戦略の一つです。

植林と並行して、丸太柵工及び編柵工から成る土壌侵食防止対策も実施しました。これらの対策は、土壌を安定させ、侵食を防ぎ、新たな植生が生長するための環境を整えるために不可欠なものです。また、森林の天然更新を促進するため、地表の雑草を除去する「地がき」も行い、地域の生態系バランスを維持するために重要な郷土樹種の成長を促しました。嬉しいことに、苗木は順調に生育し、適応の兆しを見せています。また土壌侵食防止工は、土壌をしっかりと保持し、更なる侵食を最小限に抑え、苗木を守っています。

これらの活動の成果を確認し、継続的な取り組みを支えるため、現地での定期的なモニタリングが実施されています。プロジェクトチームは、森林火災跡地回復地域のモニタリングと維持管理に貢献し、これらの初期の成果が長期的な生態系の安定につながるよう努めています。私たちはこのプロジェクトの成功に不可欠である地域社会やパートナーからの支援に感謝しつつ、Kolasin市の自然の美しさと復元力の回復に向けて、引き続き取り組んでいきたいと考えています。



土壌保全のための侵食防止工



土壌保全のための侵食防止工および植林地

Ecoグループ活動 - Ulcinj市



ここ数か月間、本プロジェクトでは、一連のEcoグループ (Vol.6参照) 活動を通じてモンテネグロの沿岸地域に位置するUlcinj市の生徒たちと積極的に関わってきました。地元の5つの学校と協力し、生徒たちが環境について学ぶことができ、さらに実際に活動に貢献できる特別な機会を提供しました。主な活動の一つとして、ロングビーチで包括的な調査を実施しました。生徒たちは、モンテネグロ語、アルバニア語、英語で作製されたプロジェクトのリーフレットを学校内で配布し、生徒と教師が一体となって活動を実施しました。

特筆すべき点として、ロングビーチの森林地帯における生徒たちの詳細な現地調査があげられます。ここでは、生徒たちが林木や樹冠の状態、土壌の質、森林再生、廃棄物の状況など様々な環境要因を入念に調査しました。この実践的な経験は、生徒たちの生態系に関する問題に対する意識を高めることのみならず、観察力や分析力を磨くことにもつながりました。

調査を終えたEcoグループは、調査結果とその地域の現在の管理方法を改善するための洞察に富んだ提言を発表しました。彼らの貢献は、環境保護への若者の参加が持つ力を示すものであり、より緑豊かで持続可能な未来を育むというプロジェクトの取り組みを反映しています。環境保護に熱心に取り組む若い世代の熱意と真摯な姿勢を非常に誇らしく思い、彼らが地域社会と環境に与える影響が今後も続くことを期待しています。



Ulcinj市の学校におけるプロジェクトリーフレットの配布



ロングビーチで現地調査を行うEcoグループメンバー

成果毎の活動サマリー

コソボ・モンテネグロ 成果1

- NFFIS 拡張計画作成

モンテネグロ 成果1

- MEFFIS を法律の細則に定義

コソボ 成果2

- 雪崩防止林のモニタリング
- 防風林活動の実施

モンテネグロ 成果2

- Ulcinj市におけるEcoループ活動
- 火災跡地植生回復に関する活動

Instagram,
Facebook
フォロー
ください!



プロジェクト Facebook
<https://www.facebook.com/WestBalkanNFFISandEcoDRRproject>



コソボ内務省危機管理庁
Emergency Management
Agency (EMA)



モンテネグロ内務省
保護救助局
Rescue and
Protection
Directorate (RPD)



国際協力機構
Japan
International
Cooperation
Agency (JICA)